

「公印省略」

28 農 林 試 第 4552 号
平 成 29 年 1 月 6 日

各関係機関団体の長

殿

各 病 害 虫 防 除 員

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成 28 年度病虫害発生予察特殊報第 2 号について

このことについて、本県でトルコギキョウ斑点病の発生を確認しましたので、病虫害発生予察特殊報第 2 号を発表し、送付します。

特殊報第 2 号

- 1 病虫害名 トルコギキョウ斑点病
- 2 学 名 *Pseudocercospora eustomatis*
- 3 対象作物 トルコギキョウ
- 4 発生の経過と概要

平成 28 年 3 月に一部の地域のトルコギキョウほ場で斑点葉のある苗が確認され、9 月頃から同様の症状及び病斑の拡大に伴う黒褐色・すす状の症状を示すほ場が複数の地域で増加した。当試験場で分離菌の形態等を確認した結果、分生胞子は単生・淡オリーブ色で倒棍棒状、基部は円錐状に細まり截切状、 $56 \sim 108 \mu\text{m} \times 3.2 \sim 5.2 \mu\text{m}$ 、子座は小型で濃褐色、分生子柄は淡オリーブ色でシンポジオ型に分生胞子を形成し、離脱痕は不明瞭であった。

これらの形態的特徴から病原菌を *Pseudocercospora eustomatis* と判断した。

本病は平成 20 年に県北部のトルコギキョウ育苗ほ場において発生が確認されていたが、その後、県内での発病の拡大は見られていなかった。なお、本病は夏場の高温期を除き春から秋にかけて多湿条件下で多発するので注意が必要である。

- 5 発生上の特徴及び症状

はじめ、葉に、5~10mm 程度の退緑斑が発生する。この部位には、のちに黒褐色のすす状の分生子が形成される。このすす状の分生子は葉の表、裏両方に発生する。

- 6 防除対策

- 1) 発生原因として育苗中の多湿が考えられるので、普段から発生に注意し、発生した育苗箱は別に管理する。
- 2) ハウス内の湿度を下げるために換気を十分に行う。
- 3) 病斑上にすす状・黒褐色の分生子がみられると完全な防除が困難なので、葉や茎に小斑点が生じた初発の時期に適切に防除を行う。
- 4) 発病を認めたら、ただちに発病部位を取り除き、ほ場外へ持ち出して処分する。



写真 ほ場での発生状況



写真 分生胞子